

曹洞宗（そうとうしゅう）

鏡徳寺報 第5号 (H30. 1. 1発行)

住 所 茨城県日立市弁天町3-3-33
電 話 (0294) 21-2049
FAX (0294) 21-2092



初春のお慶びを申しあげます

あけましておめでとうございます。
皆さまのご健康とご多幸を、心からお祈りいたします。
本年もよろしくおねがいたします。

尚、昨年ご参拝いただいた方からのお声を受けまして、今年も元日から三日まで、特別に観音堂の御開帳をいたします。
新年のお誓い、お願い事に、どうぞご家族皆さままでお参りください。

献灯台 奉納

以前、献灯台ご奉納のご案内をいたしましたところ、早速多くの方々からお問い合わせ、お申し込みをいただきました。夏のうちに発注することが叶い、十一月二十五日（大安）に無事に設置奉納することができました。提灯掛けは石川県金沢市の伝統工芸士が、特別に誂えたものです。本堂正面に奉納いたしました。篤信の方々は左記のとおりです。記してご功德を讃えんと共に、厚く御礼申し上げます。

鈴木邦壽様
小沼淳志様
池田勝弘様
黒澤 達様

金澤正夫様
岡部高二様
黒澤涉二様
矢部昭蔵様

（順不同）



奉納にみえた伝統工芸士のお二人（中央）



落語会&坐禅会開催

昨年十月八日、鏡徳寺本堂にて第二回落語会が開催されました。落語家は六代目古今亭志ん橋師匠とそのお弟子の志ん松さん。お二人の話芸によって楽しいひと時となりました。演目は次のとおりです。

古今亭志ん松 『真田小僧』
古今亭志ん橋 『鮑のし』
『抜け雀』



迫力の話芸に引き込まれました

禅の意義や意味についてのご法話があり、次に坐禅の作法説明、そして二十分程度の坐禅、質疑応答をして解散となりました。初めての

また、十一月二十三日に坐禅会を開催いたしました。こちらも多くのお問い合わせをいただき、受け入れ上限の三十名のご参加がありました。

最初に坐

方も多く見受けられましたが、皆さま指導に従って熱心に坐禅されていました。

坐禅指導は、鏡徳寺副住職大野老師。大野



坐禅は誰でも行えます

老師は現在石川県大乘寺専門僧堂（金沢市）で修行僧の指導もされており、「僧侶の先生」の立場である「准師家（じゅんしけ 師家先生の意）」の資格を持っています。（茨城県曹洞宗僧侶で唯一、全国で最年少の有資格者）

宝曆をお届けしました

今号の寺報と共に、檀信徒の皆さまには、平成三十年の宝曆をお届けしています。年忌をご確認ください。年回法要は、故人に代わって善根功德を積み、冥福を祈る大切なご修行です。怠らないようにしたいものです。

鏡徳寺一問一答 おしえてお寺さん！

Q. お焼香は何回が正しいのですか？

A. 場合にもよりますが、二回が一般的です。

仏典に香食（こうじき）という言葉があります。仏様が亡くなった方々は香りを最も上等な食べ物とするという考え方です。香を焚けばその香りが仏前を莊嚴するばかりでなく、五官（目・耳・鼻・舌・皮膚）に作用し、私たちの身心をも清らかにします。お焼香は、ご供養の気持ちを表すことの出来る大切な修行の一つなのです。

さて、肝心の作法ですが、はじめに仏前で合掌礼拝します。一回目を主香（しゅこう）と言い、右手の親指・人差し指・中指（この三本を浄指といいます）で香をつまみ、左手を添えて額の近くに念じてから香炉に焚きます。二回目は従香（じゅうこう）と言い、念じずそのまま焚きます。最後にもう一度合掌礼拝してお焼香は終わりです。参加者の多い時などはこの従香はせず、一回のみで済ませます。